

## 2022年版「山梨のおすすめ」：侍、ぶどうピザや南部茶



駒井マケイ  
国際交流員  
山梨県庁

このインターネットの時代では、共有したいことをするたびにInstagramやFacebookに投稿することが普通となっています。SNSが苦手な人たちでさえも例外ではなく、重要なライフイベントがあったらフォトモンタージュなど何かしらの形でちゃんとSNSを更新しています。

今年、私はこのトレンドに乗ることにして、2022年に印象的な「これって山梨！」と思った瞬間、あるいは私に喜びをもたらしたものを選び、デジタルスクラップブックの形で世界に共有することにしました。こうやって文字にすると、なんだかワクワクしますね！

### 歴史



▲水車の里、自元寺、八ヶ岳ロングライディング（北杜市）

#### 甲州街道～過去の武士の足跡をたどる

山梨を訪れると、あっちもこっちも絶景です。最も有名なのは、世界中の日本のポスターを彩る富士山を背景にした「忠霊塔」でしょうけど、もしベタな観光地と違うところに行ってみたいと思ったら、かつて侍たちが歩いた「甲州街道」や山梨の「北杜市」をぜひお勧めしたいです。

今年、「侍」をテーマに北杜市を旅行しました。武士の宿場である台ヶ原宿で銘酒と和菓子を堪能し、古いお寺を巡り、そして最後は乗馬で日没を迎えました。2日間の旅程でしたが、この歴史的な街にはまだまだ探索すべきものがたくさん残っていると感じています。

## 文化



▲湖衣姫、武田信玄（後藤 淳平）、山本勘助（三谷 昌登）

### 信玄公祭り ～ 年に一度、復活するヒーロー

年に一度、戦国大名で山梨のヒーローである武田信玄を記念して、開催される世界的に有名なお祭りがあります。信玄公祭りは3日間にわたって開催され、戦国時代にタイムスリップした気分になります。パレードや演劇を通じて信玄公の遺志を伝達し、地元の人々や観光客を魅了させます。

今年（2022年）の出陣式再現では、武田信玄と軍師の山本勘助の「最強コンビ」を、有名芸人の後藤淳平さんと三谷昌登さんがコメディタッチで再現してくれました。このユーモラスなやりとりの後、舞鶴城公園内に熱い雄叫びが響き渡り、信玄公まつりのメインイベントの幕開けを告げました。「世界最大のサムライ・パレード」というギネス記録を持つこのお祭りはどんなものなのかなとちょうど思っていたところで、1000人以上のイケメン侍たちが色鮮やかな甲冑に身を包み、目の前を行進し始めました。祭りに対して自分の感想は、言葉だけでは言い表せないもので、とにかくこの文化をぜひとも最前列で体験して欲しいです。

今年の祭りの最新情報はこちら

<https://www.yamanashi-kankou.jp/shingen/english/about.html>



## 食事



▲勝沼縁側茶房のぶどうパフェとピザ（甲州市）

### ぶどうピザ～少し変わっている(?)けれど、間違いなく絶品です

人前で食べたらい白い目で見られそうな、不思議だけど好きな料理はありますか？

上の写真は、ぶどうをトッピングしたピザです（いたずらではありません）。しかし、この料理を食べずに判断してはいけません。ありえない味の組み合わせだと思われるかもしれませんが、味は天才的なものです。

勝沼ぶどう郷駅からすぐのところにある小さなカフェで、このピザに出会いました。「勝沼縁側茶房」は、山梨の人気な「巨峰」と「シャインマスカット」の甘酸っぱさと、3種のブルーチーズの組み合わせで、チーズ好きにはたまらない一品を発明したのです。

もし、ぶどうピザを注文する勇気がなくても、ぶどうのパフェや他の美味しいメニューがたくさん揃っていますので、ぜひ一度は来店してみてください。

## お土産



▲南部茶の「甲斐のきらめき」（2022年発売開始）

### 甲斐のきらめき ～ 南部の贅沢な新フレーバー

さて、このブログの末尾を迎えましたので、思い出に残る美味しいお土産をご紹介します。

「甲斐のきらめき」は、山梨県南部町で栽培された厳選された茶葉を使用し、今年（2022年）発売したばかりの全く新しい高級茶です。南部は、平安時代から続く茶の栽培の歴史と、茶の栽培に適している霧の多い気候で知られています。南部の新フレーバーである「甲斐のきらめき」の「天子」及び「白鳥」は、濃厚な味と香りがしっかりと感じられ、後味はすっきりとしているのが特徴です。初めてこのお茶を飲んだのは、あるフォーマルな仕事の場でした。テーブルの上には有名な飲料ブランドのものも並んでいたが、「甲斐のきらめき」は圧倒的に人気でした。

山梨では、数々の賞を誇るワインや日本酒が生産されていますが、このようなノンアルコールでハラル対応の飲料オプションは新鮮で、より幅広い人々やライフスタイルに対応した製品開発の一步になることを期待しています。